

【第4章 章末問題解答】

1. 連結会計導入の背景と連結財務諸表の作成目的について述べなさい。

<解答>

従来、日本の会計制度は、親会社単体の決算が開示の中心であったため、親会社と支配関係にある子会社は、親会社の利益を最大化することを目的に経営活動を行っていた。

しかし、2000年から始まった「会計ビッグバン」により、日本でも企業グループ全体の利益を重視し、それを開示の中心とすることとなった。それに合わせて、企業経営の目標も、親会社の利益ではなく、グループ全体の利益の最大化へと変化したのである。

このように、現在、企業の活動は大規模になり、1つの会社が単体で経済活動を行うことにとどまらず、企業グループ全体で経済活動を行うように変化し、金融商品取引法では、企業グループ全体の財務諸表を作成し、公表することが求められている。この企業グループの経済的実体を記載した財務諸表が連結財務諸表であり、これは支配従属関係にある会社を1つの集団（企業集団）とみなして、企業集団を1つの会社と捉えて作成されるものである。

連結財務諸表は、①親会社、子会社のステークホルダーに対して、企業グループ全体に関する会計情報をするため、②親会社の経営者が子会社を含めた企業グループ全ての経営を効率的に管理するため、などの目的から作成される。

2. 次の用語について説明しなさい。

<解答>

① 子会社の範囲

子会社の範囲は、親会社が当該企業の議決権の過半数を所有しているという支配力基準か、所有する議決権が50%以下であっても、当該会社を実質的に支配しているという支配力基準により判断される。

② 関連会社の範囲

関連会社の範囲は、親会社が当該企業の議決権ある株式の20%以上50%以下を所有しているという支配力基準と、所有する議決権が20%以上でなくても、当該企業に重要な影響を与えることができるという影響力基準により判断される。

③ のれん

のれんとは、資産と負債の差額である純資産よりも多い金額を払ってその会社の株式を購入したことを意味するものである。これは、親会社が子会社の経営を支配するために、親会社が余分に支払ったことから生じるもので、連結貸借対照表上の資産に計上される。なお、のれんは20年以内の適切な期間で定額法などの方法によって償却する。

3. 次の取引において、必要な仕訳を示しなさい。

① P社はS社に対する短期貸付金 200,000 円があり、それにより受取利息 12,000 円を計上した。

<解答>

短期借入金	200,000	短期貸付金	200,000
受取利息	12,000	支払利息	12,000

② P社は20X1 年期末に S 社株式の 70%を 150,000 円で取得し、子会社とした。その時の S 社の貸借対照表は以下のとおりである。なお、S 社の資産、負債は時価で評価されている。

<章末問題② S 社貸借対照表>

S 社 貸借対照表

流動資産 300,000	負債 200,000
固定資産 100,000	資本金 100,000
	資本準備金 100,000
<u>400,000</u>	<u>400,000</u>

<解答>

資本金	100,000	子会社株式	150,000
資本準備金	100,000	非支配株主持分	60,000※1
のれん	10,000		

※1：（資本金 100,000 円＋資本準備金 100,000 円）×30%

③ P社はS社に原価率 80%で商品を販売している。S 社の期末商品 4,000 円は P 社から仕入れたものである。

<解答>

売上原価	800	繰越商品	800
(期末棚卸高)		(商品)	

期末商品 4,000 円に含まれる内部利益 800 円（4,000 円×20%）は未実現のため控除します。